



「読書八境」く本を読むのに適した場所く

秋田県立図書館 館長 菅原 敏紀



いちしましゅんじょう

市島春城（謙吉）はジャーナリスト、帝国

議会衆議院議員、初代早稲田大学図書館長、

文筆家等の多彩な顔があり、後に大隈伯後援

会会長となつて晩年の政治活動を支え、一九二二（大一一）年の大隈死去に際しては「国民葬」を提案し、その実現に尽力しました。

また、早稲田大学図書館長在任中の一九〇三（明三六）年には、日本文庫協会（現在の公益社団法人日本図書館協会）による第一回図書館事項講習会を実施する等、図書館司書制度の基礎を作った人物としても知られています。現在、早稲田大学総合学術情報センター二階ホール（中央図書館入口前）には、その功績を称え銅像が設置されています。

春城は実際数多くの随筆を残しており、著作は二十冊を優に超えます。どれも含蓄のある文章で、折に触れ目を通していますが、その中から一編を挙げるとすれば、『春城筆語』（早稲田大学出版部 一九二八・八）に収められている「読書八境」ということになります。随筆のアンソロジー（『にほんの名随筆36 読』 作品社 一九八五・一〇）にも入っており、興味のある方は御一読ください。

人の気持ちや場所や境遇、季節や時間によって各異なるように、読書も時と場所が変われば味わいも自ずと違ってくる。そこで春城が読書に適した場所（境遇）として選出したのが、「一 羈旅、二 酔後、三 喪中、四 幽囚、五 陣営、六 病褥、七 僧院、八 林泉」の八つです。現代では馴染みのない言葉も用いられているため、わかりやすく言い換えると「一 旅行の途中、二 飲酒した後、

三 親しい人を喪った後、四 不祥事等で謹慎塾居を余儀なくされている時、五 仕事等で正念場を迎え、難しい決断を迫られている時、六 病氣、怪我で入院療養している時、七 神社仏閣、教会に身を置いている時、八 庭園、公園で佇んでいる時」となります。八つの何れも他人に干渉されることなく読書に集中できる、あるいはそうせざるを得ない点で共通しています。読書とは本質的に孤独な行為であり、当然のことながら会話等は無用であるという春城の考えがよく伝わってきます。

さて、昨年四月から県立図書館二階閲覧室カウンスターの正面の柱に、夏目漱石揮毫の書を掛けています。漱石の流麗な筆跡で、盛唐の詩人祖詠の五言律詩「汝墳別業」の一節「山中無外事 樵唱有時聞」がしたためられ、科挙に合格し進士となりながら望む官職を得られずに、汝水の辺の別荘に隠棲した後半生が綴られており、祖詠の鬱屈した心情は察するに余りあります。

とは言うものの、樵夫の歌声が時折聞こえるような人里離れた地で心穏やかに本に親しむ、これこそ読書に適した場所（境遇）であり、大先達の春城には申し訳ないのですが、「読書八境」にあと一つ追加したいと感じるのは私だけでしょうか。



夏目漱石揮毫の書

伊藤永之介文庫のデジタルアーカイブ公開について



伊藤永之介
疎開先横手の書斎にて

伊藤永之介（1903（明治36）年～1959（昭和34）年）は、秋田市出身の農民文学作家です。農村を舞台とした「梟」「鶯」で芥川賞候補にノミネートされ、作家としての地位を確立したのち、戦後は「警察日記」「駐在所日記」が映画化され、人気を博しました。2023（令和5）年は生誕120年の節目にあたることから、県立図書館では、伊藤永之介文庫のデジタル化及びデジタルアーカイブでの公開に取り組みました。

1 伊藤永之介文庫について

2004（平成16）年、岡里苜子氏より、著作、旧蔵書、遺愛品等562点が寄贈され、伊藤永之介文庫が設置されました。さらに2022（令和4）年、善養寺幸子氏より関係資料100点が新たに寄贈され、資料点数は662点となりました。新たに寄贈された資料の中には、直筆原稿や創作ノート、取材メモ、新聞記事のスクラップ等、伊藤永之介の創作の原点とも言える貴重な資料が多く含まれています。

2 デジタル化とデジタルアーカイブへの登録

これまで寄贈された資料の中から、直筆原稿、取材手帳や創作ノート、日記等30点を選定し撮影を行いました。画像データの中に個人情報が含まれていないか一点ずつ確認したのち、デジタルアーカイブに登録しました。2023（令和5）年12月末までに21点が登録済みで、今後も引き続き登録していく予定です。



デジタルアーカイブ「署長日記原稿」より

3 デジタルアーカイブの公開について

登録した画像データは、秋田県立図書館デジタルアーカイブで公開しています。これにより、県内外の研究者の方からは、日記を翻刻し、研究に活用したいという要望がありました。今後も多方面で伊藤永之介の研究が進むことが期待されます。

図書館では、より多くの方に伊藤永之介の文学に触れていただけるよう、引き続きデジタル化を進め、発信してまいります。

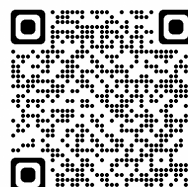


デジタルアーカイブ「取材手帳中国めぐり
自昭和31年9月至10月」より

“お宝”がいっぱい！

秋田県立図書館デジタルアーカイブはこちらから→

貴重資料の他、秋田魁新報記事見出し索引、郷土雑誌索引、語り部による民話（音声）等、様々なコンテンツを検索・閲覧することができます



近代美術館との連携展示 中村征夫写真展「顔面博覧会」

12月14日(木)から1月23日(火)まで、近代美術館との連携展示 中村征夫写真展「顔面博覧会」を開催しました。近代美術館が所蔵している秋田県出身の水中写真家中村征夫の写真パネルから、様々な魚のユニークな表情にスポットを当てた作品54点を展示しました。

人気が高い中村征夫の写真展ということもあって、連日多くの観覧者があり、「魚たちの生命力が感じられた」「まるで自分たちが海の中を潜っているような感覚になった」などの感想も聞かれました。

また、閲覧室内では関連展示として、県立図書館が所蔵している中村征夫の写真集をはじめ、様々な動物の顔を撮影した数名の写真家の写真集も展示、貸し出しました。



海中を思わせるように、たくさん魚の写真で埋め尽くされた展示室



ユニークな表情を見せる魚たちの写真

お金と暮らしのセミナー「“貯蓄から投資へ”」 Part1、Part2

2月3日(土)と2月17日(土)、秋田県金融広報委員会との連携により「お金と暮らしのセミナー」を開催しました。講師には金融広報アドバイザーの齋藤廣勝氏を迎え、「“貯蓄から投資へ”」と題して、1回目は新NISAとイデコ(iDeCo)の違いと選択方法、新NISAのしくみと始め方を、2回目はイデコ(iDeCo)のしくみと始め方、投資の基礎知識と商品選択について、わかりやすく解説を行いました。

新NISAとイデコ(iDeCo)はどちらにもメリットとデメリットがあり、個人の投資の目的によって選択が異なることや、各銀行や証券会社によって商品の性格が

異なることから、よく情報を集め、複数の資料を見比べてから選択するべきだという説明がありました。

また昨年7月の大雨災害復旧にも触れ、投資する前に、まずは生活の元手になる資金の確保が大切だという指摘に、大きくうなづく姿もありました。



定員をコロナ流行以前の50名に戻して開催しました。



投資の意味や基礎知識を解説する講師の齋藤廣勝氏

令和5年度ビジネスセミナー

2月24日(土)、「DXの基本の「き」 ビジネスに役立つデジタル技術」と題し、ビジネスセミナーを開催しました。講師は、マネジメントオフィス檜 代表の吉野智人氏です。DXとは、「デジタルで新しい価値を生む取り組み」を指します。DX導入によりコロナ禍にあっても着実に成長を遂げた大企業の例、日常生活DXのポイント、国際競争力を失わないために国を挙げてDXに取り組む必要性などを紹介いただき、受講者も自分ごととして取り組んでいきたいという意欲が高まった様子でした。

ビジネスセミナーは、当館のビジネス支援の一環で実施しています。閲覧室の「ビジネス支援コーナー」では、最新のビジネス関連図書のほか、マーケティング情報や各種新聞のデータベースなどもご利用いただけます。



難しいテーマを大変わかりやすく説明する吉野智人氏

Pick up

～各班からの話題～

図書資料班

オリエ津阪関係資料について

郷土資料としてオリエ津阪の資料を収集しました。秋田市出身のオリエ津阪（本名：添田テフ）は、東京松竹楽劇部（のちの松竹歌劇団）に入団し昭和初期に多くの歌劇舞台で活躍した人物です。収集資料のうち『レビュー読本』や『ルンパの嘆き』には、彼女が幼い頃過ごした秋田を思う様子や、水の江瀧子らとの舞台での思い出が綴られています。また『雑誌オリエ』や『オリエ津阪関係スクラップ』にはファンからの声やオリエの写真が掲載されています。

当館ではこれらを基に「秋田の歌劇人オリエ津阪」と題し閲覧室にて展示を行いました。



左上段より、『レビュー読本』『ルンパの嘆き』『オリエ津阪関係スクラップ』オリエ会、左下段『雑誌オリエ』3冊

情報班・サービス班

「すこやか読書応援タイム」がスタートしました！

こどもまんなか

すこやか読書応援タイム

毎月第1・3日曜日
12:00～17:00

毎月第1・3日曜日は、お子様連れの方に向けたイベントを開催しています。どうぞお気軽にお越し下さい。

おはなしタイム ～えほんのよみかせ～	子ども読書相談 絵本や児童書の紹介 読み聞かせアドバイス
13:30～14:20 14:40～15:30	13:00～16:00

上記の時間帯は図書館に子どもたちが多く来館します。みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

問合せ 秋田県立図書館 TEL 018-866-8400

「すこやか読書応援タイム」のポスター

9月3日（日）より、毎月第1・3日曜日の正午から午後5時までを「すこやか読書応援タイム」としています。

この取り組みは、こども家庭庁が実施している「こどもまんなかアクション」の一環として、子どもや子育て中の方々が気兼ねなく様々なサービスを利用できるようにするためのものです。

この時間帯は、おはなしタイム（絵本の読み聞かせ）や子ども読書相談（絵本や児童書の紹介、読み聞かせのアドバイス）など、お子様連れの方に向けたイベントを開催しています。どうぞお気軽にお越しください。

企画・広報班

秋田県子ども読書支援センターについて

子どもの読書活動の推進を図ることを目的に県立図書館内に設置され、子ども読書アドバイザーと支援員（読書ボランティア）が、絵本の選び方・読み聞かせの仕方など子どもの読書に関する相談に応じています。また、「支援員おすすめの本」リストを、テーマ別・年齢別（0～3歳、4～5歳、小学校の低・中・高学年、中学生）に作成し、お配りしています。

相談日は毎週木曜日と毎月第1・3日曜日の午後1時～4時、場所は「えほんのへや」です。保育園や幼稚園、読み聞かせボランティア等へは、図書セット、紙芝居、大型絵本の貸出しも行っています。



日曜日の相談日には「おはなしタイム」を開催しています。

Event ～イベント・催し物のお知らせ～

■博物館との連携展示

特別展示「手づくりの味 木製看板の魅力」

商家の軒先や柱をかざった明治から昭和期の看板を展示します。厚い板に字を刻み着彩した木製看板は手づくり感にあふれ、ずっしりした重みが魅力です。

- 【期間】 4月4日（木）から5月21日（火）まで
- 【時間】 午前9時30分から午後5時まで
- 【会場】 特別展示室
- 【入場料】 無料